

女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表(耐津波)

No.	指摘日	図書種別、 図書番号	図書名称	該当頁	コメント内容	回答内容	資料等への 反映箇所	回答状況	備考
1	2020/8/31	基本設計 方針	基本設計方針に関する 説明資料【6/51条 津 波による損傷の防止】	P19	設計基準対象施設における浸水防護重点化範囲について、緊急時対策建屋の位置付けを整理して説明すること。	設計基準基準対象施設の「浸水防護重点化範囲」から緊急時対策建屋を除外する。 基本設計方針における「浸水防護重点化範囲」の記載について、先行プラントを踏まえた記載としたことから、対応不要。	基本設計方針比較 (O2-工-D-13-0002) P19	今回回答	
2	2020/8/31	基本設計 方針	基本設計方針に関する 説明資料【6/51条 津 波による損傷の防止】	P20	内郭防護の対象となる浸水防止設備について、設置位置がわかるように説明すること。	基本設計方針においては、先行プラントの記載と整合し、設備種類毎の記載としているため、対応不要。	- (反映不要)	今回回答	
3	2020/8/31	VI-1-1-2- 2-4	津波への配慮に関する 説明書	P75	漂流物の衝突荷重の算定について、2012年又は2019年のFEMA式のどちらを適用するのか明確化して説明すること。	漂流物衝突荷重の算定式として2012年のFEMA2ndを適用する。	VI-1-1-2-2-4(O2-工-B-01-0002) P75,104 補足-140-1(O2-補-E-01-0140-1) P4.3-26	今回回答	
4	2020/8/31	VI-1-1-2- 2-4	津波への配慮に関する 説明書	P75	港湾内に停泊する船舶について、種類及び漂流物化しない運用を説明すること。	発電所港湾に入港する船は、主に燃料等輸送船である。 ただし、不定期で作業船等が入港する可能性があるため、作業船等が基準津波の襲来前に退避が十分可能であることを説明する。なお、カーテンウォール内は退避が困難であるため、ゴムボートを使用する運用とする。	VI-1-1-2-2-4(O2-工-B-01-0002) P83,103 補足-140-1(O2-補-E-01-0140-1) P4.2-125 ~127	今回回答	
5	2020/8/31	VI-1-1-2- 2-4	津波への配慮に関する 説明書	p75	漂流物の衝突荷重の算定式の適用性について、津波の1波と漂流物の位置の関係性を踏まえ、漂流物の算定式の選定の考え方を詳細に説明すること。	発電所敷地内を「直近陸域」、発電所港湾内(約500mの範囲)を「直近海域」、その他海域を「前面海域」に区分していることを説明し、それぞれの区分で漂流物対象としているものを説明する。	補足-140-1(O2-補-E-01-0140-1) P4.3-21	今回回答	

女川2号工認 指摘事項に対する回答整理表(耐津波)

No.	指摘日	図書種別、 図書番号	図書名称	該当頁	コメント内容	回答内容	資料等への 反映箇所	回答状況	備考
6	2020/8/31	VI-1-1-2- 2-3	津波への配慮に関する 説明書	p31	入力津波における地形改変及び防潮壁の設計変更に伴う水位変動について、基本設計方針及び基本方針での位置付けを整理した上で、説明すること。	防潮壁の平面線形の変更、第2・3号機海水ポンプ室の躯体補強、復旧・改修工事に伴う地形改変による入力津波への影響を確認し、これらの影響の考慮前後の津波高さを比較して、安全側に入力津波高さを設定することを記載した。	基本設計方針比較 (O2-工-D-13-0002) P7 VI-1-1-2-2-3(O2-工- B-01-0002) P15,31~ 37 補足-140-1(O2-補-E- 01-0140-1) P1.5-44~ 54	今回回答	
7	2020/8/31	比較表(VI- 1-1-2-2)	先行プラント比較表(VI- 1-1-2-2 津波への配 慮に関する説明書)	P50	岩盤部に設置する防潮堤(鋼管式鉛直壁)について、上部工の構造を説明すること。	防潮堤(鋼管式鉛直壁)の岩盤部に設置するRC遮水壁について、防潮堤の主要な構造部材として、上部工の説明に追記した。	VI-1-1-2-2-5(O2-工- B-01-0002) P4,28	今回回答	
8	2020/8/31	比較表(VI- 1-1-2-2)	先行プラント比較表(VI- 1-1-2-2 津波への配 慮に関する説明書)	P56	防潮壁について、津波防護施設として位置付ける部位が要目表及び図面と整合しているか確認し、説明すること。	防潮壁について、上部工だけでなく下部工も含めて津波防護施設としているが、要目表・図面には津波を直接受ける上部工の主要な寸法等を記載している。下部工も含めた寸法等の照査に必要な情報については、耐震計算書や補足説明資料等を用いて今後説明する。	—	今後回答	
9	2020/9/14	VI-2-1-4	耐震重要度分類及び重 大事故等対処施設の 施設区分の基本方針	P25	防潮堤(鋼管式鉛直壁)が間接支持している貫通部 止水処置について、津波の流入経路及び設置位置を 説明すること。	経路からの津波の評価におけるその他の流入経路として、防潮堤の下部を貫通する配管等の貫通部を抽出し、防潮堤(鋼管式鉛直壁)の背面補強工に貫通部止水処置を設置している。貫通部止水処置の詳細については、今後提出の計算書と併せて説明する。	VI-1-1-2-2-4(O2-工- B-01-0002) P11,13,33,38	今回回答	